

○公共工事環境配慮確認項目

質疑回答別紙

プロセス	環境側面	配慮事項	NO.	計画・設計段階における配慮事項の選定	施工段階における配慮事項の実施	備考 (配慮事項の未選定・未実施理由を記入)
施設等の設計・建設	施設の省資源・省エネルギー化	コージェネレーションシステム・深夜電力利用蓄熱システムの導入	1			
		省エネルギー型の照明ランプの採用（インバータ内蔵、自動消灯機能など）	2			
		屋上緑化・壁面緑化の推進	3			
		自然エネルギーの活用（太陽光発電設備、太陽熱利用設備など）	4			
		高効率給湯機器の採用（エコキュート、エコジョーズなど）	5			
		断熱性向上に資する素材の採用（断熱ガラス、断熱フィルムなど）	6			
	施設の耐久性向上	プレキャスト製品の使用（プレキャストコンクリートなど）	7			
		防食技術の採用（防食塗装、耐食性コンクリートなど）	8			
		ステンレス配管の採用	9			
		メンテナンスフリー材料及び機器の採用	10			
		施設の延命化（管路再生工法の採用など）	11			
	工事渋滞の発生	周辺の交通事情に配慮した立地・工法の採用	12			
	廃棄物の発生	解体・撤去を考慮した設計の採用	13			
	快適性の向上	建築物や構造物へのユニバーサルデザインの導入	14			
車両・機械の利用	大気汚染物質、汚水、騒音、振動の発生、燃料の消費、電気の消費	グリーン購入法に適應した建設機械の採用（排出ガス対策型建設機械、低騒音型機械など）	15			
		工事工程の平準化による機械・車両の効率的な使用	16			
		機械・車両のアイドリングストップの実施、急発進・急加速の禁止	17			
		機械・車両の整備不良の確認	18			
	騒音の発生	早朝・夜間作業の制限	19			
		仮囲（防音塀）や防音シートの設置	20			
車両・機械の利用	燃料の消費	大型機械の利用による工事の効率化	21			
		商用電源を利用した機械の使用	22			
	電気の消費	仮設事務所での省エネ	23			

プロセス	環境側面	配慮事項	NO.	計画・設計段階における配慮事項の選定	施工段階における配慮事項の実施	備考 (配慮事項の未選定・未実施理由を記入)
原材料の使用	資源の消費	既存ストックの活用（既存樹木、現場発生品の再利用）	24			
		間伐材を利用した木製構造物の使用・再利用	25			
		剪定枝等のチップ化による堆肥やマルチング等への活用	26			
		グリーン購入法に適応した材料の採用（再加熱アスファルト、エコセメント、鉄鋼スラグなど）	27			
		仮設事務所での節水	28			
廃棄物の発生	建設残土、建設汚泥などの適正使用及び適正処理	グリーン購入法に適応した工法の採用（建設汚泥再生処理工法、コンクリート塊再生処理工法、路上再生路盤工法など）	29			
		JACIGの活用による建設発生土の工事間利用	30			
		再資源化施設への搬出	31			
		切土・盛土量の均衡化	32			
		建設汚泥の減量化	33			
		産業廃棄物の適正処理	34			
地形の変化	生態系への影響	自然地の改変の少ない構造、工法の採用	35			
		自然環境の創出可能な工法の採用（多自然型川づくりなど）	36			
道路占有工事の実施	工事渋滞の発生	集中工事の実施による路上工事の効率実施及び渋滞低減の推進	37			
その他	粉じんの発生	防塵シートの設置	38			
		裸地への散水	39			
	騒音の発生	排水性（低騒音）舗装の採用	40			
	地盤沈下の発生	地下水涵養設備の設置（水たまらーずなど）	41			
				42		
			43			